

【わたらせ未来基金】活動の一部ご紹介

わたらせ未来基金

代表世話人 青木章彦

1 目的

本会は、渡良瀬湿地帯に氾濫原の生態系を再生させ、40 年後にコウノトリを生息させることを目標として、渡良瀬エコミュージアム・プランの実現を図り、自然と調和した流域社会システムの構築を行う。

2 具体的実践活動

◎わたらせ遊水地湿地保全・再生プロジェクト

平成 22 年 3 月、国土交通省利根川上流河川事務所が策定した渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画を基に（特に第 5 章）、積極的に外来植物除去活動（セイタカアワダチソウ除去）、再生された湿地の荒廃を防ぐためのメンテナンス（ヤナギの切り取り、人為的攪乱等）とモニタリングを毎月実施、官民協働の活動を推進

◎ヨシ原保全を考えるヨシ刈りとヨシ活用のためのマルチ材、腐基土作り

毎年 12 月渡良瀬遊水地内においてヨシ刈りを行ない、刈ったヨシを裁断して※¹マルチ材や約半年かけ※²腐基土を作成・販売（サンプル参照）

◎他に、足尾での緑化活動（植樹・育樹、ヨシの利用）、学校ビオトープ作成や助言、野鳥の生息場所保護・絶滅危惧種保全のための旧谷中村屋敷林防火帯作りなど（パンフ参照）

3 -湿地の保全について-

Q1：もう少し治水のための掘削が進行し、ある程度落ち着いてからでいいのでは。

A1：それでは遅いです。掘削すると、セイタカアワダチソウやヤナギがすぐに優占してしまうので、せっかく再生した湿地でのシードバンクが有効に活用できない。

Q2：セイタカアワダチソウの除去についても、広い遊水地内のほんの一部だけで本当の意味があるの。

A2：要注意外来生物リスト:植物（環境省）、外来植物対策手引き（国土交通省）等に記載されています。傍観ではなく、積極的に関わっていく事です。

参照：<https://www.dropbox.com/sh/wbhecv97s2s71bz0/AACHKqeJAvBRopWETWGkYCKEa?dl=0>

*セイタカアワダチソウ除去の目的

・セイタカアワダチソウは、希少種を含む在来種を駆逐してしまうため、徹底的に除去する必要がある。

*ヤナギ除去の目的

・ヤナギ実生が密生して優先すると、希少種を含む在来種の発芽と生育が妨げられるため、除去する必要がある。

・ヤナギ実生群落には、セイタカアワダチソウは生育可能で、さらに希少種を含む在来種の生育が妨げられるので、セイタカアワダチソウ対策のためにも除去する必要がある。

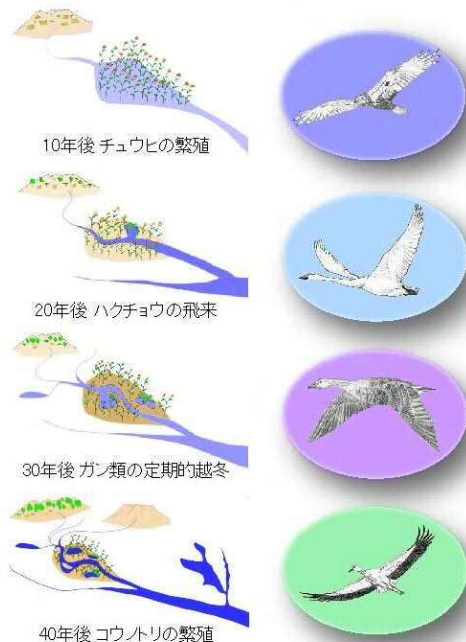
・ヤナギ除去を行っているのは、掘削地の一部である。掘削による裸地化の後に、ヤナギが優占した場所だけを除去している。また、対照区を設けて除去しない場所を設けてモニタリングしている。

既存のヤナギ林は除去していないが、種子の供給源になっており、今後は、ヤナギ林のゾーニングを検討する必要がある。

流域ぐるみで足尾と 渡良瀬の自然を再生!!

わたらせ未来プロジェクトは、渡良瀬川流域の人たちが協力し合い、渡良瀬湿地帯（遊水池）と足尾に豊かな自然を取り戻す NPO のプロジェクトです。未来に向けて渡良瀬川流域の上流と下流の交流を進めるとともに、渡良瀬湿地帯の自然を再生し、2011 年にチュウヒの繁殖、2031 年にガン類の定期的越冬、2041 年にコウノトリ繁殖そして、2051 年にツル、3000 年までにはトキがすむことが出来る、自然と人間の共存を目指します。
(2001 年)

わたらせ未来プロジェクト
生きものがつなぐネットワーク



あなたも参加してみませんか！

- 渡良瀬湿地帯でのヨシ刈り、防火帯づくり
- 渡良瀬湿地帯での自然観察会、講演会
- 足尾での植樹、草刈り等の管理
- 足尾でのドングリ拾いとドングリ里親
- ウォーク・ザ・わたらせ（流域を見聞）
- 渡良瀬遊水池湿地保全・再生プロジェクトなどのイベントを実施しています。

★会員募集中★

★会員募集中★

わたらせ未来プロジェクトを企画運営する「わたらせ未来基金」は、会費や寄付金などで運営されている市民団体です。ぜひ、会員になってわたらせ未来プロジェクトを応援してください。

会員の方には、わたらせ未来通信やイベント案内を定期的にお送りいたします。

会員種別と年会費

一般会員：	1口	2,000 円
法人・団体会員：	1口	5,000 円
家族会員：	1口	2,500 円(NEW)
子ども会員：	1口	300 円
賛助会員：	1口	10,000 円

郵便振替口座：00110-6-586603

口座名：わたらせ未来基金

通信欄に会員種別をお書きください。

ご寄付も同じ口座で承っております。

わたらせ未来基金 事務局

〒306-0234 茨城県古河市上辺見 3041

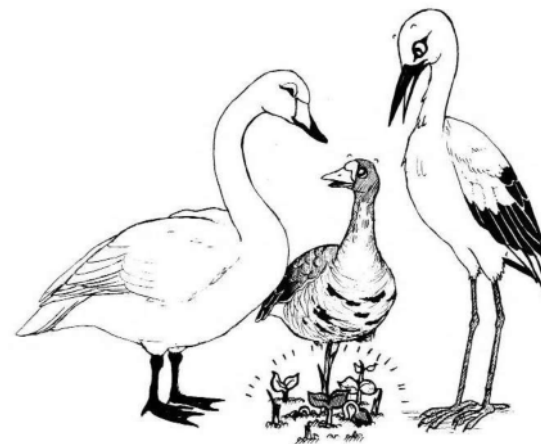
内田孝男方

電話:0280-31-8913 携帯:090-6938-5490

メール:mikuni84219-uti@lion.ocn.ne.jp

わたらせ 未来 プロジェクト

NPO わたらせ未来基金



日本有数の
ヨシ原を守ろう！

地場産業と連携して自然を守る

渡良瀬湿地帯（遊水池）には、日本有数の広大なヨシ原があり、そのヨシ原を維持してきたのは、地場産業であるヨシ産業です。わたらせ未来プロジェクトは、地場産業と連携して、ヨシ原を保全します。小学校では、ヨシ刈りやヨシズ編みを地域学習として取り組んでいます。刈り取ったヨシは足尾緑化や地域の土壌改良に役立てます。

足尾の山に栄養分を戻す

足尾の山は土ともに栄養分も流出してしまいました。木を育てるには、土や栄養分が必要です。そこで、渡良瀬湿地帯のヨシでつくった※¹腐莖土を足尾の森林復活に利用します。

湿地を保全・再生しよう！
渡良瀬遊水地湿地保全・再生プロジェクト

国土交通省はH22年3月、渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画を策定。これを機に渡良瀬湿地帯の湿地の再生に向けて、活動を始めました。外来種のセイタカアワダチソウや、ヤナギの除去作戦です。同時に野鳥をはじめ植物、昆虫や動物調査を実施します。多様な生態系復活の科学的なデータを得て、今後の湿地再生を価値あるものにし

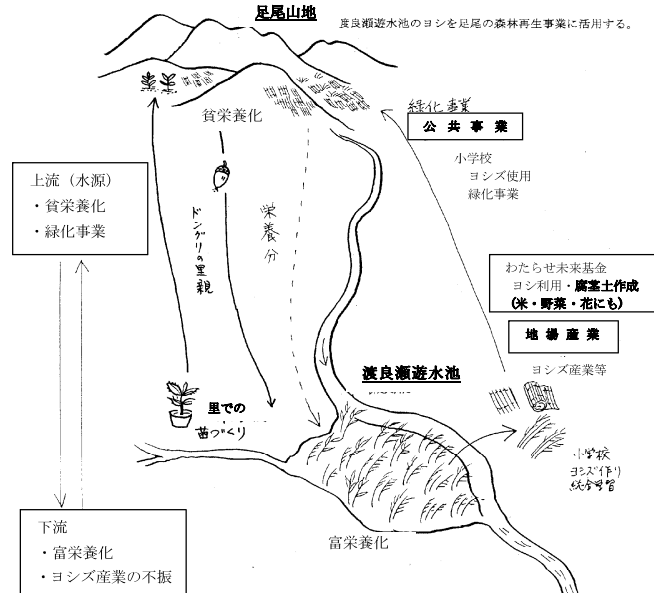
ていきます。

わたらせ未来プロジェクト

一次産業・地場産業と公共事業の連携～市民による公共事業
渡良瀬遊水池の湿地再生事業と足尾の森林再生事業の連携

足尾の森林再生＝治水利水機能向上、地球温暖化防止など

度良瀬遊水池のヨシを尾尾の森林再生事業に活用する。

霞ヶ浦流域と渡良瀬川流域、足尾山地の連携による環境保全・再生事業
足尾銅毒事件によって下流に流出した養分をヨシをとおして再び上流足尾に戻す取組

わたらせ未来基金 2000・10 飯島 博
2012・3 一部改定

上流と下流を結ぶ

渡良瀬川上流の足尾では、約 100 年前から続いた足尾製錬所の煙害で、草木が枯死して広大なはげ山がつくられました。それは土壌（土）も流出して岩が剥き出しになる凄まじいものでした。一方、下流の渡良瀬湿地帯は、野生生物を守りながら広大なヨシ原を保全することが大きな課題となっています。そこで、わたらせ未来プロジェクトは、これらの課題に上流と下流の交流事業を

足尾にふるさとの森を
復活させよう！

通して取り組んでいます。

ドングリの里親、継続募集中！

国と栃木県により、緑化事業が進められ、緑は戻りはじめましたが、外来種や足尾に元々なかった植物がほとんどです。しかし、足尾に昔いた野生生物を呼び戻すには、足尾に元々あった森を復活させることが必要です。そこで、足尾に元からあった植物（ドングリ）を育てて、大きくなったら足尾に植え戻し、足尾にふるさとの森を取り戻していきます。

そのためには、たくさんの人の協力が必要です。
私たちは、渡良瀬川流域の人たちにドングリの里親を呼びかけています。そのドングリは足尾でまだ緑が残っているところで拾って、里親希望者に配布します。3年ほど育てていただき足尾に戻します。

上流下流協働の植樹活動に
参加しよう！

上流の「足尾に緑を育てる会」や日光森林管理署と協力して、湿地帯の裁断ヨシやヨシの※¹腐茎土を利用して、ドングリから育てた苗の植樹を行います。この植樹を積み重ねることによって足尾を昔あったふるさとの森に変えていきます。

※¹ 腐茎土とは：刈り取ったヨシを裁断し、約半年かけて作成した、土壌改良材です。

第59回渡良瀬遊水地野鳥観察会（遊鳥会）定例会資料

（平成27年10月17日）

前回（9月12日）は、「関東東北大豪雨」の影響で中止しました。9月10日の当日、周辺を見てまわりました。渡良瀬遊水地遊水地の全域は水没していて、生き物達はどうしているだろうと、土手に突っ立って見ていたら、イタチ2匹、ハタネズミ1匹が土手を越えて畑の方に逃げていきました。

周辺地区でも大きな浸水被害が出ましたが、鬼怒川のような堤防の決壊が無かったことは不幸中の幸いでした。私のところでも、市から非難指示が出されましたが・・・。

渡良瀬遊水地周辺では、昭和22年（1947年）のキャサリン台風以降70年近くの長い間、大きな自然災害に見舞われていません。しかしそれは、明日も、大きな自然災害を免れ得るという、保障にはなりません。今回の豪雨を1つの警鐘と受け止めたいと思います。なお、ツバメのねぐら入り観察を、中止ではなく延期と言うことで・・・、と言う話がありましたが、足元が悪いし、避難生活を強いられている地域の方々がいる中での観察会は出来ないと判断しました。

この豪雨が、生き物達にどのような影響を与えるのでしょうか？当面、植生の影響を受けるチュウヒのねぐらと、来年のオオセッカの動向に注目したいと思います。

前回の資料は作ってありますので、お受け取りください。

鳥便り 8/24 キツネ（生井、大木）。8/27 ムクドリ乱舞（真瀬）。9/11（ハクレンの跳躍、第一水門、真瀬）9/14 ツバメ多い（一色）。9/20 新赤麻橋西から、ねぐら入りするツバメを観察、約1万羽がヨシ原浄化施設のあずま屋付近に入る。サギ類約400羽、千本杭に入り、日没近くに谷中湖方向に移動（小倉、一色）。9/18 地内水路に到る沼で、アオアシシギ6羽、エリマキシギ1羽が浮かんだ草の上に乗っていた。コガモ、ハシビロガモ（木村）。9/29 谷中湖上空を飛ぶマガン2羽（関口）10/2 マガン12羽（真瀬、崎山、小倉、一色）。10/11 与良川上流にノスリ（一色）。ゴルフ場から地内水路にいたる途中の四角い沼の東側ヨシ原にチュウヒ10羽+がねぐら入り（小倉、一色）。

* 関口さんが、9月29日に谷中湖上空を飛ぶマガン2羽を見ています。10月2日には真瀬さん他がマガン12羽が第3調節地の沼に下りているのを見ています。時期的に早いと思いませんか？今までマガンについて特別な注意を払ってきていませので、詳細な記録をとっていませんでした。遊鳥会の月ごとの資料を繰ってみたところ、平成22年11月21日に第3調節地の今回渡来した沼に7羽、24年2月5日に谷中湖に25羽、24年2月26日に干し上げられた谷中湖に177羽、25年12月17日に谷中湖に3羽、今回の9月29日に谷中湖に2羽、第3調節地の沼の12羽だけです。その日のうちに飛去してしまうことが多いのですが、24年2月26日渡来のマガンは、東北地方の太平洋側に大雪が降り、それを避けての渡来と考えられ、滞在期間は比較的長く、最終確認は木村さんの3月11日でした。関東の唯一のガン類の集団越冬地は茨城県稲敷市の、オオヒシクイだけです。

* 何度か助成金の申請をしていますが、何時もはずれ！です。今回、河川財団の河川基金にその申請をしたいと思います。毎度、松岡さんにはお骨折りを頂いていますが、なにとぞよろしくお願いします。



（キツネ・生井、大木）



（ハクレン・第1水門、真瀬）



（マガン・真瀬）



（ノビタキ・板倉・真瀬）

今回は、厳冬を間近に控えて、山から里へ、里から南へと向う野鳥を観察します。昨季は、マガモ、コガモ、オナガガモ、ダイサギ、アオサギ、ハチクマ、トビ、ノスリ、チュウヒ、オオタカ、キジ、キジバト、アオゲラ、アリスイ、アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、モズ、コサメビタキ、シジュウカラ、ホオジロ、オオジュリン、カワラヒワ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシブトガラス、ハシボソガラスの29種の出現でした。11月定例会（11月21日）は渡来したばかりの冬鳥を見ます。（一色）